

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070702081		
法人名	株式会社 グローバルケア		
事業所名	グループホーム グローバルケア		
所在地	〒807-0873 北九州市八幡西区藤原3丁目10番15号 Tel 093-691-3021		
自己評価作成日	令和05年05月30日	評価結果確定日	令和05年07月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	令和05年07月07日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①令和1年から「おとなの学校」(学校形式)を実施しています。
②月1回・全事業者対象で合同レクレーション実施。(北九州市の福祉バス:大型バスを借りて日帰り外出) アサヒビール大分工場R4年9月・若松区「シャボン石鹸工場R5年5月・等
③自立支援:配膳のお手伝い、湯呑洗い、食事の後かたづけ、植物のお世話、洗濯物のお手伝い等
④小倉北区のピアニスト「水上 裕子」の音楽セラピー(認知症カリキュラム)・・・R5年5月から再開

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

八幡西区郊外の閑静な住宅街の中にある定員9名の地域密着型グループホームである。協力医療機関医師による月2回の往診と病院看護師、介護職員が連携し、24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制の下、看取りも行っている。学校を再現する介護レクリエーション「おとなの学校」、認知症介護カリキュラム「音楽セラピー」、ユマニチュードケア手法等、認知症の方に対する様々なプログラムや利用者の心を重視する介護サービスにより、利用者の表情が和らぎ、笑顔がよく見られるようになったと、家族からも感謝の言葉が寄せられている。外国人雇用や人事評価制度の改定に取り組み、ホーム2階の研修室で介護職員初任者研修や喀痰吸引等研修を行う等、人材の確保と育成に取り組み、さらなる発展を目指しているグループホーム「グローバルケア」である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	夜勤から日勤への申し送り(朝礼)時に、全員で唱和し、実践している。	理念を見やすい場所に掲示し、朝の申し送りの前に出勤職員で唱和している。職員は理念の意義や目的を理解し、利用者が自分らしく暮らせるよう、一人ひとりの尊厳を大切に支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	R3年度R4年度は、コロナの関係で実施できていないR5年4月から日常の散歩や地域の催し物(盆踊り・敬老会・バザーなど)に、積極的に参加予定です。	コロナ禍の中で、地域交流は難しいが、新型コロナウイルス感染症が「5類」に変更後は、運営推進会議に参加の民生委員から地域の情報を得て、少しずつ地域の行事や活動への参加が実現できるよう、検討している。	実習生やボランティアの受け入れ、地域の行事、活動に積極的に参加する等、地域に開かれたグループホームを目指していくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	R3,4年度はコロナの関係で出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	R3, 4年度は「書面開催」でした。	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、ホームの運営や利用者の状況、行事の取り組み、ひやり・ハット、身体拘束について報告していたが、コロナ禍の中で、書面による報告が続いていた。今年6月から対面での会議が再開されている。	民生委員、地域包括支援センター職員の参加はあるが、家族を含め、参加委員の増員を図り、それぞれの立場から広く要望や助言、情報提供を受け、サービスの向上に活かしていくことを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	R3,4年度はコロナの関係で出来ていない。	行政担当窓口にて、疑問点、困難事例の相談や空室状況や事故等の報告を行い、生活保護課とも情報交換しながら連携を図っている。運営推進会議に、地域包括支援センター職員、民生委員が出席し、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間を除き施錠していない。拘束をしない介助は、実践的に実施しているが、職員の入れ替わりもあった為、職員全員が「具体的な禁止行為」を十分理解できるよう、周知徹底する。	法人内研修や職員会議の中で、身体拘束の職員研修を行っている。毎日の申し送り時等で、拘束について話し合う機会を設け、職員一人ひとりが常に意識して、言葉や薬の抑制も含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルは完備して、職員の行為が虐待に結びつかない様に、日々防止に努めているが具体的な研修は、徐々に出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員について、研修等徐々に実施している。	権利擁護の制度の資料やパンフレットを用意して、利用者や家族から相談があれば対応出来るように準備している。成年後見制度を活用している利用者があるので、後見人とのやり取りの中で制度の理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	R3,4年度はコロナの関係で面談は出来ていないが、電話で聞いています。運営に反映させている。	職員は日常生活の中で、利用者の意見や要望を聴き取り、ホーム運営に反映させている。家族の面会時にコミュニケーションを取りながら、家族の意見や要望を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。「グローバル通信」を発行し、利用者の様子を伝えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の主任会議を行っているが、職員の意見や提案が、集約されているとは言いがたい。	職員会議（ホームミーティング）を毎月第2金曜日18時から開催し、法人内の主任会議の内容の報告と、各利用者の現状について話し合っている。管理者は、日頃から職員とコミュニケーションを図る中で、それぞれの気づきや意見を聴いて、出来る事から反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年「キャリアパス要件」等の届出も行き、福岡県介護職員処遇改善交付金、改善支援補助金、ベースアップ等支援加算等も活用して条件の整備に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては、性別年齢などを排除している。、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	初任者研修や喀痰吸引研修機関として登録し、毎月、法人本部で主任者会議や職員研修を実施する等、人材育成に力を入れて取り組んでいる。管理者は、職員の特技や能力を把握して適材適所に人員配置し、職員一人ひとりのの事情に配慮して働きやすい職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育・啓発活動への取り組みは、十分でないが取り組みしています。	人権学習や外部の研修会に参加する機会は少ないが、法人全体でユマニチュードケアに取り組み、利用者の尊厳を守る介護サービスに取り組んでいる。毎日の申し送り時に理念を唱和し、職員は常に利用者の人権を尊重し、利用者のその人らしい暮らしの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月つき1回のペースで「職員社内研修」を実施している。また、事業所のミーティングも(1回/月)実施しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	取り組みは十分には出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーを通じて、第一段階で関係づくりを行い、月1回以上主任とのケアプラン会議を実施して、すり合わせを行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャーを通じて、第一段階で関係づくりを行い、月1回以上主任とのケアプラン会議を実施して関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャー・OTを通じて、本人と家族等とまず必要な支援を見極め、月1回以上主任とのケアプラン会議を実施し対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	申送り(朝礼)時に唱和する、「ホーム信条」にもその項目を、取り入れ暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係を築くべく、方法を模索中です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	支援に努めている。	新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたので、状況を判断しながら、面会制限も緩和している。「下関の方迄ドライブしたい」「お寿司を食べに行きたい」等、家族と一緒に希望を叶えてもらい、これまでの馴染みの関係が継続出来るように取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援要請があれば、最大限協力している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	主任会議、ホーム会議で検討している。	入居開始時に、アセスメントから知り得た情報を利用者との会話に活かして信頼関係を築き、利用者の思いや意向の把握に努めている。意思を伝えることが難しい利用者には、選択肢を示して尋ねる等、工夫しながら思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	看護要約・診療情報提供書等で把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	主任会議、ホーム会議で検討し、現状の把握に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しや、検討を通じて現状に即した介護計画を作成している。	職員は、利用者や家族とコミュニケーションを取りながら意見や要望を聴き取り、職員間で話し合い、利用者一人ひとりの状態に合わせた介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、入退院等、利用者の状態変化に合わせて、主治医や関係者と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	主任会議、ホーム会議で検討し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームの周りの住民様も高齢化が進んでいるので地域資源を十分には、把握できない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	十分支援できていない。	入居時に、利用者や家族と話し合い、希望を聴きながら主治医を決めている。協力医療機関医師による月2回の訪問診療と夜間や緊急時の対応で、24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	1ヶ月に2回程度の看護師勤務を基本に、携帯電話利用で支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、病院、ホーム(事務長・ケアマネジャー)で、対応している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医院とが家族と施設介護職員とケアマネと密接な話し合いで取り組んでいる。	契約時に、重度化や終末期の方針について利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と密に連絡を取りながら、主治医を交えて方針を確認し、看取りの希望があり条件が揃えば看取りの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練は出来ていない。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練は年2回実施しているが、地震や水害などの訓練は、実施できていない。	年2回、自主通報訓練を実施し、いざという時に慌てないよう意識して行っている。また、非常災害に備えて非常食の備蓄にも取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	十分注意を払い対応している。	利用者の尊厳を守る介護サービスについて職員間で話し合い、言葉遣いや対応に注意し、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスに取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、利用者の情報が漏洩しないように取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	主任を中心に働きかけしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分希望にそっているとは言えない部分もあると思うが、支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容・美容の希望など本人の意思を尊重し支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材準備・盛り付け・後片付け等、一緒に行っている。	昼食と夕食については外注し、ご飯と汁物はホームで作り、朝食については夜勤者が作っている。利用者の力を発揮する場として食器拭き等を手伝ってもらったり、おやつ作りにも挑戦する等、作って食べる楽しみを提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の状態に合わせた支援をしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・夕食後は、夜勤者1名で十分ではないが、個別の状態に合わせた口腔ケアをしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ケアマネージャー・主任を中心に支援している。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は利用者の排泄パターンや生活習慣を把握して声掛けや誘導を行い、トイレでの自立に向けた排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間も出来るだけトイレ誘導を行い、利用者のオムツ使用の軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別の状態に合わせた予防をしている。排便スケールの把握で、今の時点では出来ている、と思う。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には月・水・金曜日の入浴日だが、時間帯などは、出来る限り本人の希望に応じている。また、他の曜日の入浴にも出来る限り対応している。	入浴は、出来るだけ利用者の希望の時間に入浴できるよう配慮し、週3回を基本としている。浴槽が深いため、椅子を入れて段差を作り、安全に入浴できるように工夫している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別の状態に合わせた支援をしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1ヶ月に2回の往診を基本に服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	主任会議、ホーム会議で検討し、支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	十分とは言えないが、極力支援している。	利用者の希望や体調に配慮しながら、気候の良い時期には近くの公園に散歩に出かけ、気分転換を図っている。新型コロナウイルス感染症が5類に変更されたことを受け、法人本部で行う音楽セラピーや七夕まつり等の行事に利用者と職員が参加し、利用者の気分転換と生きがいに繋げている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望・希望に応じて支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望・希望に応じて支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	十分とは言えないが、極力工夫している。	利用者が一日の大半を過ごすリビングルームは、生け花や季節の飾り物を掲げ、季節感を大切にしたアットホームな雰囲気のある共用空間である。また、小まめな換気と清掃に取り組み、利用者が居心地よく過ごせる明るくて清潔な共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	十分とは言えないが、極力工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	要望・希望に応じて工夫している。	利用者が自宅で使っていた馴染みの筆筒や椅子、身の回りの物、家族の写真や仏壇等大切な物を持ち込んで貰い、動線にも配慮しながら部屋作りを行い、利用者が安全に安心して過ごせるよう工夫している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	十分とは言えないが、極力工夫している。		